

宇都宮市立平石中央小学校学校いじめ防止基本方針

はじめに

本校では、「いじめはどの児童にも起こりうる」、「いじめは決して許されない行為である」との認識の下、いじめの根絶を目指して、いじめの未然防止の取組の充実と早期発見・早期対応の徹底に努めてきた。

この度、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）が施行されたことを受け、第13条※の規定に基づき、児童がこれまで以上に、楽しく、安心して学校生活を送ることができるよう、本校におけるいじめの防止、いじめの早期発見及び対処（以下「いじめの防止等」という。）の対策を総合的かつ効果的に推進するための基本方針を策定する。

※（法第13条）

学校は、いじめ防止基本方針又は地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。

1 いじめの防止等のための基本理念等について

（1）基本理念

- 全ての児童が学習その他の学校生活を安心して送ることができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにします。
- 全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながらこれを放置することがないように、いじめが許されない行為であること等について、児童が十分に理解できるようにします。
- いじめの防止等の行動指針である「うつのみや いじめゼロ宣言」に基づく、児童の自主的な活動を支援します。
- 学校、市、家庭、地域その他の関係者との連携の下、いじめの問題を組織的に克服することを目指します。

（2）いじめの防止等の基本的な考え方

いじめは、何より発生させないことが最も重要であり、発生した場合には、早期に発見し、迅速かつ組織的に対応する必要がある。

① いじめの防止

- ・ 教育活動全体を通して、児童「いじめは決して許されない」ことを理解させるとともに、思いやりや助け合い、規範意識等の心を育て、望ましい人間関係を築く力の育成を図る。
- ・ 児童が、いじめの問題について正しく理解し、いじめを自分たちの問題として捉え、その解決に向け自主的に行動することができるよう指導する。

② いじめの早期発見

- ・ いじめの早期発見のための体制を整備する。
- ・ 教職員がいじめに対する指導力を高めることができるよう研修の充実を図る。

③ いじめの対処

- ・ いじめを把握した場合には、事実確認を正確かつ迅速、組織的に行い、いじめを受けた児童の安全確保を図る。
- ・ いじめを受けた児童・保護者への親身な支援と、いじめを行った児童への背景等を十分理解した上での毅然とした指導、その保護者への助言等を継続的に行う。
- ・ 必要に応じて市や関係機関等との連携を図る。

④ 家庭、地域との連携

- ・ 家庭、地域と密接に連携し、児童を見守り、育む体制の整備に努める。
- ・ 家庭に対し、その保護する児童がいじめを行うことのないよう必要な指導に努めること及びいじめの加害・被害に関わる心配がある場合には学校や関係機関等との連携に努めることについて啓発を行う。
- ・ 地域に対し、児童を見守る取組を推進すること及びいじめの疑いがある場合には学校や関係機関等への情報提供に努めることについて啓発を行う。

⑤ 関係機関等との連携

- ・ 必要な指導を行っているにもかかわらず、十分な効果を上げることが困難な場合には、警察や児童相談所など関係機関との適切な連携を図る。また、いじめに係る組織を新設・拡充し、組織的対応の強化を図る。

2 学校におけるいじめ防止等の取組について

(1) 組織的な取組

いじめの問題は、特定の教員が抱え込むことなく、組織的に対応することが重要であることから、いじめ等に係る校内組織を設置する。

なお、いじめの事実確認を行う場合は、本組織を主体とし、必要に応じて関係職員を加えるなどする。

また、学校だけでは対応が困難な事案に対しては、教育委員会等との連携を図りながら対応にあたる。

① いじめ等対策委員会

〔構成員〕

校長，副校長，教務主任，児童指導主任，教育相談係，関係職員，スクールカウンセラー

〔取組内容〕

- ・ いじめの防止等の全体指導計画の立案，改善
- ・ 校内研修会の企画・立案
- ・ 定期的なアンケートや教育相談の実施と，結果の分析，共有
- ・ いじめ相談窓口の設置と教育相談体制のチェック
- ・ いじめの事実確認
- ・ 指導計画の実施状況の把握と改善

② 校内研修

「いじめに関する校内研修マニュアル」等を活用した校内研修を実施する。

(2) いじめの防止等の取組

① いじめの防止

「いじめはどの児童にも起こりうる」との認識の下、未然防止の取組の充実を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。

ア 地域学校園内の小・中学校が連携した取組の実施

- ・ 学校園の児童指導重点目標「明るく元気なあいさつ」「正しく丁寧な言葉づかい」
- ・ 「使って気持ち良い言葉・傷つける言葉」を取り上げた授業や集会の実施と掲示物(通年)
- ・ 「思いやり・親切」「規則の尊重・公德心」を重点項目とし、道徳の授業を実施する。(5・10月)
- ・ 卒業生に関する情報交換会の実施(3月)

イ 「いじめゼロ強調月間」の取組の実施

- ・ いじめアンケートの実施及び結果を基にした検討会
- ・ 教育相談の実施
- ・ 「いじめゼロリボン」を身に付ける
- ・ 児童会主催「なかよし集会」の実施(業間)

ウ 「宮っ子心の教育」の実施

- ・ 人権意識を高めるまごころ週間(人権教育週間)の実施
- ・ 「読み聞かせ」などの読書活動を通じた心の教育の推進
- ・ 縦割り班による清掃や集会等の実施

エ 児童がいじめ根絶に向けた活動を自主的に行うための指導

- ・ 道徳や学級活動において、いじめを許さない態度や実践力を育てる。
- ・ 児童会が主催し、「なかよし集会」を実施する。(業間)
- ・ いじめ根絶標語を作成し、校内に掲示する。

オ 情報モラル年間指導計画に基づく計画的な授業の実施

- ・ 学級活動や道徳を中心に、「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」について指導する。
- ・ 各教科、総合的な学習の時間等の調べ学習を行う前に、「安全への知恵」「情報セキュリティ」「公共的なネットワーク社会の構築」について指導する。

カ いじめゼロ強調月間におけるいじめの防止等の取組状況の点検等

- ・ 「いじめ問題への取り組みについてのチェックシート」を用いて、全教職員が各自で評価したものを児童指導主任が集計し、学校としての取組状況の点検をする。

② いじめの早期発見

児童が相談しやすい環境を整備するとともに、教職員は児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。

ア 児童、保護者への相談窓口等の周知

- ・ 相談窓口をまず担任とし、事情に応じて児童指導主任の鶴見教諭、村松副校長を問い合わせ先とする。
- ・ 学校ホームページでは相談窓口とリンクさせ、相談窓口の詳しい情報を知ることができるようにする。

イ スタンダードダイアリーの活用

- ・ いじめの情報収集の手段として「相談コーナー」を活用する。
- ・ 学校と家庭の連絡を取る一手段として活用し、学校と家庭が連携していじめ防止に取り組む。

ウ 児童への定期的なアンケート調査や教育相談等の実施

- ・ いじめのアンケート調査（５・７・１０・２月）
- ・ 定期教育相談（５・１０・１月）

エ 教育委員会によるネットいじめ等パトロールの活用と、家庭との連携によるネットいじめの早期発見

- ・ 「ネットいじめ等パトロール」の周知活動（「ネットいじめ等パトロール」のトップページの配付）
- ・ 情報提供の協力依頼（学校だより、学級懇談会、学校ホームページ）

オ 「いじめに関する校内研修マニュアル」等を活用した校内研修の実施

- ・ 現職教育として、年間計画に位置付け実施する。（必要に応じて講師を要請する。）
- ・ いじめ等対策委員会などの要請により、臨時に校内研修を実施する。

③ いじめの対処

事実確認を正確かつ迅速、組織的に行い、被害児童を守り通すとともに、加害児童に対しては、「いじめは決して許されないこと」を毅然とした態度で指導する。

○ いじめが発生した場合には、以下のとおり対応する。

ア いじめ等対策委員会を中心とした事実確認

※ 被害者, 加害者, 関係児童から事情を聴くなどして正確に事実関係を把握する。

イ いじめを受けた児童・保護者に対する親身な支援と, いじめを行った児童に対する背景等を十分に理解した上での毅然とした指導及びその保護者への継続的な指導・助言等

ウ いじめの解決に向けた, 保護者や市, 関係機関・団体等との連携

エ いじめが犯罪行為として取り扱われるべき場合等の警察への相談・通報

3 取組の充実に向けて

- ・ 本基本方針を学校ホームページで公開するとともに, 魅力ある学校づくり地域協議会や学校だより等を活用するなどして周知を図り, いじめ防止等の対策を家庭や地域との連携の下に推進する。
- ・ 本校におけるいじめ防止等の取組が適切に実施され, 実効性のあるものとなっているかについて, 「いじめ対策委員会」において定期的に点検したり, 本市の学校マネジメントシステムの共通評価項目として設定されているいじめの防止等の取組についての項目及び学校が独自に設定した項目の評価結果等を検証したりするなどして, 取組内容や取組方法の改善に取り組む。